

丸亀城管理室だより No.22

転用石材の製作

崩落した石材はできるだけ元の位置へ積み直す予定ですが、経年劣化や崩落の衝撃で破損してしまい、元の位置に積み直すことができない場合があります。そういった場合には、新石材や「転用石材」を使用することになります。

「転用石材」とは、破損し元の位置に積み直すことができない石材に、再加工をすることで、他の位置での積み直しに使用できるようにした石材のことです。どんな石材でも転用石材にできるというわけではなく、復旧する石垣の安定性を保つために、破損した箇所を取り除いても十分な大きさが確保でき、そのほかのキズもなくしっかりしていることが条件になります。

【転用石材の製作手順】

石材調査を行う際に撮影した正面写真などから型紙を作成し、型紙に合う一石を探し、慎重に再加工します。転用石材は、再加工により大きさが小さくなるため、元の位置に積み直すことはできませんが、元々石垣の石材であるため、別の位置に積み直したとしても、石材の質感や色味が周囲によくなじみます。



【石材正面の撮影風景】



【転用石材製作用の型紙】



【型紙を石材に当て確認する様子】

石垣の勾配の作り方

丸亀城の石垣といえば、勾配が「扇の勾配」と呼ばれる美しい曲線を描くことが特徴ですが、この曲線は一石一石の角度を微妙に変化させながら積み上げていくことで描き出されるものです。築石の下に「^{かいいし}介石（飼石）」と呼ばれる小さな石を入れて、築石の角度を微調整します。

介石は、石垣が積み上がると隠れてしまい見ることはできなくなりますが、勾配の美しさを描き出すためになくてはならない役割を担っています。



ここでは介石を2個入れて、築石の角度を微調整しています。

丸亀城石垣復旧現場説明会を開催しました

1 月 12 日に、丸亀城石垣復旧現場説明会を開催しました。当日は大変寒く、時折り雨が降ってくるなどあいにくの天気でしたが、100 名を超える方々にご参加いただきました。

最初に、市職員と工事担当者から石垣の構造や機能、また、石材の解体、回収、積み上げ手順など工事についての説明を行いました。

説明終了後、参加された方には栗石に自由に絵やメッセージを描いてもらい、実際に自分の手で石垣の裏に詰めてもらいました。

参加された方からは「江戸時代に石垣を作った人はすごいと改めて思った」「石垣復旧工事に携われてよかった」「貴重な体験ができた」「難しい工事だと思うけど頑張って」など、多くの暖かい言葉や激励をいただき、また、栗石にも皆さんの石垣復旧工事に懸ける想いをたくさん書いていただきました。

皆さんの期待に応えるべく、安全に配慮しながら 1 日でも早い工事完了を目指すとともに、今後も様々なイベントを開催し、「石垣復旧工事の今」をお伝えしていきたいと思います。



★丸亀城ボランティアガイドが「香川観光おもてなし大賞」を受賞

丸亀城でボランティアガイドを行っている『丸亀市文化財観光案内会』が、「観光香川おもてなし大賞」を受賞しました。これは、県内各界各層を代表する幅広い分野の団体などにより設立された「香川観光おもてなし運動県民会議」の会員から推薦があった「おもてなし活動」の中で、特に優秀で他の模範となるものとして選出されたものです。

11 月 19 日に開催された「香川観光おもてなし運動県民集会」の中で表彰式が行われ、『丸亀市文化財観光案内会』の代表者 2 名が登壇し、池田知事から賞状を授与されました。



『丸亀市文化財観光案内会』は、平成 12 年 5 月の設立以来 50,000 人以上をおもてなししてきました。
活動時期など、詳しくは丸亀城公式ホームページからご覧ください。



★丸亀城のお濠で魚類捕獲調査を行いました

1 月 17 日に丸亀城内濠で、市淡水漁業組合の協力のもと、魚類捕獲調査を行いました。魚類の増加による水中の環境悪化を抑えることが目的で、フナやコイなどを中心に約 1 トンの魚類を水揚げしました。

その後種類分けを行い、在来種のフナ類は土器川生物公園および市内の川や池などに放流、外来種のブルーギルなどは生態系保護のため駆除するなどしました。



作 成：丸亀市教育委員会 文化財保存活用課
丸亀城管理室 TEL0877-23-2107